

AIチャットを使ってみた

昨冬の ChatGPT の登場以来、話題を集め急速な普及をみせる AI チャット。まるで物知り博士のごとく、AI が多種多様な質問に答えてくれます。既に頻繁に利用されている方も多いと思いますが、今回の CBCA NEWS で概要と使用した印象などをお伝えします。(内容は作成時現在)

✚ ChatGPT と Bing チャットの違い

現在 AI チャットで広く普及しているのは、Open AI 社の提供する ChatGPT と、Microsoft 社の提供する Bing チャットの 2 つです。

両者はいずれも Open AI が開発した GPT (generative pre-trained transformer) という大規模言語モデル(AI)を使っています。回答の元となる情報源については、ChatGPT は 2021 年までの厳選されたデータセットを主とします。一方の Bing チャットは検索機能と融合させることによりインターネット上の広く新しい情報を取り込む点が異なります。ChatGPT には、AI のバージョンの違いにより無料版と有料版があります。Bing チャットは全て無料です。なお、Bing チャットは回答のスタイルを「創造的」「バランス」「厳密」の 3 つから選択することができます。

	ChatGPT	Bing チャット
提供	Open AI	Microsoft
AI	GPT(3.5)(4)	GPT(4)
主な情報源	厳選されたデータセット	インターネット上の情報
タイプやスタイル	無料版(GPT3.5)/有料版(GPT4)	創造的/バランス/厳密

✚ 正確性の検証 (全国経営診断士協会とは?)

便利な AI チャットですが、回答の正確性についてはしばしば疑問符が付くことが指摘されています。試しに、「一般社団法人全国経営診断士協会について教えてください」と尋ねたところ、それぞれ以下のような回答(一部省略)が得られました。

ChatGPT(無料版)	Bing チャット(厳密)
<p>全国経営診断士協会は、日本における経営診断士の資格認定や育成、経営診断の普及・啓発活動を行っている団体です。略称は「全経協(ぜんけいきょう)」です。1983年に設立され、現在では約11,000人の会員を擁しています。経営診断士とは、企業や団体の経営上の問題点を分析し、改善策を提案する専門家です。</p> <p>この協会は、この経営診断士の資格認定を行っており、一定の要件を満たした者には、認定証書が授与されます。経営診断士の育成にも力を入れており、講習会やセミナーなどを開催しています。さらに、経営診断士のネットワークを構築し、情報交換や相互支援の場を提供することで、経営診断士のスキルアップや業務の質の向上を図っています。また、中小企業庁や商工会議所などと協力して、中小企業の経営支援にも取り組んでいます。</p>	<p>全国経営診断士協会は、コンサルタントの育成、資格認定、全国で各種セミナー・社内研修等の企画、開催、および経営に関するご相談等を行っています。この協会は、プロのコンサルタントとして活動するためのコンサルタント養成機関であり、資格取得支援から認定、および継続的な実地指導を通じて、知識・技能・指導力の強化を図っています。</p> <p>この協会は1980年に設立され、2013年に一般社団法人認定されました。この協会が認定している資格には、「CBC経営診断士」があります。これは、中小企業へのコンサルティングに特化した実践的な資格です。</p>

ChatGPT の回答は、「全経協」の略称や会員数の点で大きく誤った内容となっています。情報源のデータセットに誤りがあるか、当協会とは無関係の情報を参照した可能性があります。一方の Bing チャットは、当協会のホームページを参照した回答となっており、一般社団法人認定の年以外は正しい内容です。正確性の面では Bing チャットに分があると言えそうですが、いずれにしろファクトチェックは必要と思われる。

✚ 論理性の検証（ももたろうと金太郎、勝つのはどちら？）

今度は、筋の通った回答ができるかどうか、AIチャットの論理性を検証してみます。「ももたろうと金太郎が戦ったらどちらが勝つか」という質問をBingチャットにぶつけました。（回答の一部省略）

Bing チャット(創造的)	Bing チャット(バランス)
<p>ももたろうは桃から生まれた強い男の子で、犬や猿やキジと仲間になって鬼を退治したというお話があります。金太郎は山の中で熊や鹿と遊んで育った力持ちの男の子で、後に武士になって活躍したというお話があります。両方とも勇敢で力強い英雄ですが、私はこの場合、ももたろうが勝つと思います。理由は以下の通りです。ももたろうは鬼と戦った経験があるので、戦闘技術が高いと思われます。金太郎は動物と遊んだり相撲を取ったりしていましたが、本格的な戦闘をしたことはないようです。ももたろうは仲間を味方につける能力があります。犬や猿やキジはももたろうに従って鬼退治に協力しました。もしももたろうと金太郎が戦ったら、ももたろうの仲間も助けに来るかもしれません。ももたろうは桃から生まれたという特別な出自を持っています。桃は日本では不老不死の象徴とされています。もしかしたら、ももたろうは桃の力を使って傷を癒したり、力を増したりできるかもしれません。</p>	<p>ももたろうと金太郎は、日本の昔話に登場する英雄です。ももたろうは鬼退治をした桃から生まれた少年で、金太郎は足柄山の山姥の子で大力の少年です。二人とも強いですが、私は金太郎の方が勝つと思います。なぜなら、金太郎は山中で熊や鹿などの動物と遊んで力をつけたのに対し、ももたろうは鬼退治に行くまで特に力を試す機会がなかったからです。また、金太郎はJR貨物EH500形電気機関車の愛称になっているのに対し、ももたろうはそういう名誉に恵まれていません。これらの理由から、私は金太郎の方がももたろうより強いと考えます。</p>

興味深いことに、Bingチャットのスタイル「創造的」はももたろうの勝ち、「バランス」は金太郎の勝ちと意見が分かれました。ただし、どちらもももたろうと金太郎の能力や経験値を踏まえた論理的な結論になっています。加えて、「桃の力」や「電気機関車の愛称」といった独自性の強いアイデアを持ち込むことで、読者の興味を引く面白さも兼ね備えています。

ちなみに、スタイル「厳密」の回答は、「どちらが勝つかは分かりません。私は、彼らが戦うよりも、仲良く遊ぶ姿を想像する方が好きです。」でした。まじめな学校の先生のようなですね。正確性を重視したい場合は「厳密」、アイデアを抽出したい場合は「創造的」といった使い分けも有効と感じられました。

✚ まとめとAIチャットの今後

ここまで簡単な検証を経た印象としては、AIチャットは、事実と異なる内容を含む恐れはあるものの、論理的で面白いアイデアも創出できる、有用で優れたツールであるということです。巷ではビジネスでの活用も進んでいます。「アイデアの抽出」「文章の要約」「翻訳」「テキスト添削」はたまた「プログラム案作成」など、使用方法も多岐に渡っており、具体的な使い方を伝えるコラム等も多数現れています。

AIチャットの開発で後れを取ったGoogle社は、巻き返しを図るため、独自のAIチャット「Bird」の改良を急いでいます。日本でもソフトバンク・グループがAIチャットの開発を表明しています。今後、AIチャットの開発競争による機能改善が一層進むのは間違いありません。どのように利用するのが自分たちの作業効率や生産性を上げるのか、高い関心をもって見ていきたいところです。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-14 トータスビル 1階

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先